

ポルピュリオス『エイサゴゲ』序文の間から直接に導き出されたものではない

ということを結論づけたのである。

この岩熊氏の報告は、12世紀の普遍論争に関する哲学史の大幅な書き換えを要請するものである。矢内氏が提起する「岩熊氏の枠組の中でのロスケリヌスとアンセルムスの位置づけ」の問題は、まさしくこの点にかかわるものであるし、関沢氏が述べられた「学派の呼称を当事者の自己呼称とすべきなのか、思想の内実に対応した哲学史的・外在的なものとすべきなのか」という問題は、哲学史という学問の孕む根本問題を明確に指摘したものと言うことができるだろう。

いずれにせよ、日本の中世哲学研究が、このような世界レベルの研究の最先端の問題を論ずることができるようになったことを率直に喜ぶたい。読者諸氏が、この報告を契機に普遍論争のさらに深い研究へと導かれることをこそ願うものである。

---

## 特定質問

### 矢内義顕

岩熊氏がこれまで発表されてきた研究の画期的な点は、11-12世紀の写本の探索と分析に基づいて、従来、実念論 (realism) - 唯名論 (nominalism) の図式で説明されてきた、この時代のいわゆる「普遍論争」の研究に *vocales* という概念を導入したことにある。*nominales* という語は、アベラールの死後に登場し、彼の主張は、従来の意味での nominalism ではなく *vocalism* と呼ぶべきものだという提案である。この提案は、この分野の研究者たちの間で市民権を得つつあると言えよう。

今回の発表「*Vocales* 再論」は、これまでの研究をさらに精緻化すべく、アベラールにおける proto-*vocalism* から *vocalism* への移行を提案する。氏によると、proto-*vocalism* とは、ポエティウスとアリストテレスの論理学的著作を *in re* の立場からではなく、*in voce* の立場から解釈する立場であり、普遍の問題とは関係がない。この proto-*vocalism* を携えてパリにきたアベラールが、シャンポーのギョームとの論争を通じて *vocalism* へと移行する経過が、リモージュ・テキストなどの新資料の検討によって明らかにされる。

この発表に関して、筆者が質問者として立てられたのは、同時代の修道院著作家の立場から、本発表に関して何らかの問題提起をすることができないか、ということであった。そこで筆者としては、アンセルムスの著作の一節から二つの質問を提起したい。その一節は、彼の『みことばの受肉について』にある。

私たちの時代の弁証論理学者、いや弁証論理学の異端者たちは、普遍的実体を発声音に他ならないと考えている…… (illi utique nostri temporis dialectici, immo dialecticae haeretici, qui non nisi flatum vocis putant universales esse substantias, ... *De incarnatione verbi*, I, 9, 21-22).

ロスケリヌスを批判するこの一節は、一般に、実念論者としてのアンセルムス、唯名論者としてのロスケリヌスを対比する際に引用される locus classicus である。

ここから出てくる質問の一つは、次のようなものである。上述のように、伝統的な意味での唯名論の存在が否定されるとしたならば、この唯名論の対概念であった実念論についても再検討を迫られることになる。アンセルムスは「実念論者」(realist) と言ってよいのであろうか。かつて M. M. アダムズは “Was Anselm a Realist?: The Monologion,” *Franciscan Studies* 32 (1972): 5-14 でこの問題を提起し、また岩熊氏も、“The Realism of Anselm and His Cotemporaries,” *Anselm: Aosta, Bec and Canterbury*, ed. D. E. Luscombe & G. R. Evans, Sheffield, pp. 120-135 を発表しておられるが、改めてこの点についてご説明を願いたい。

第二は、ロスケリヌスについてである。アベラールがロスケリヌスに学んだことは疑いない。岩熊氏も、「ロスケリヌスの『範疇論』注解」(『中世思想研究』XLVI (2004): 55-73) において、ロスケリヌスのアベラールへの影響を強調しているが、今回の proto-vocalism の提案において、彼の影響は評価されていない。この点について、どのように考えればよいのか。

筆者の質問は以上の二点である。